

令和7年度 第2回 静岡市発達障害者支援地域協議会会議録

- 第1 日 時 令和7年12月10日(水) 午後1時30分～午後3時30分
- 第2 場 所 城東保健福祉エリア 複合棟3階 第1・2研修室
(静岡市葵区城東町24番1号)
- 第3 出席者
- (委員) 大塚玲委員(会長)、岩田真喜子委員、佐藤博司委員、
五條智久委員、有田瑞恵委員、内田雅子委員、山根光子委員、
酒井晴恵委員、前島恵美委員、高木智香子委員、平山晃司委員、
井関智恵委員、貝瀬佳章委員、中原美華委員、木林薫子委員
- (事務局) 松下保健福祉長寿局次長兼健康福祉部長、寺田障害福祉企画課長、
清水参与兼障害者支援推進課長、
吉引精神保健福祉課長、萩原子育て教育政策監、
宮部こども若者応援課こども若者相談担当課長兼
こども若者相談センター所長
増田幼児教育・保育支援課主任主事、
磯部こども園運営課主幹兼副主幹、久保田こども家庭福祉課長、
鈴木こども家庭福祉課課長補佐兼母子保健係長、
安井児童相談所長、
高山特別支援教育センター担当課長兼特別支援教育センター所長、
静岡市発達障害者支援センター稲葉課長、福田副主任、水野副主任
療育センター令和 杉本、山崎
- 第4 欠席者 小林商業労政課長、松田参与兼こころの健康センター事務長
- 第5 傍聴者 一般傍聴者 0名
報道機関 0社

第6 議事録

1 報告事項

- (1) インクルーシブ保育の実践研修について
(日本一子育て・教育環境がよいまちプロジェクトチームより説明)

(木林委員)

ただ今の鈴木主査のご提案は、すぐにでも始めていただきたい状況です。保育園・幼稚園では発達障害のお子様が大変増えております。ただ、空き教室を利用するなど良いとは思いますが、事業所が大変増えており、質も様々です。先日の園長会でもそういった話が出ましたので、安心して連携できる場所をご案内していただきたいと思います。送迎サービスもしていただけるのも、いいやり方だと思います。

(鈴木障害福祉企画課主査)

おっしゃる通り、児童発達支援事業所自体増えており、様々な事業所さまがあることは把握しております。事業所の開設に関しましては、指定の基準を満たしていれば開設ができます。ですが、その後の支援をどうしていくか、自立支援協議会等でも保育所等訪問や児童発達支援事業所が話題に上がります。後ほどご説明しますが、発達障害者支援センターきらりの取組としても、どうしていくかが課題です。連携をするためにも福祉側の質も高めたいと思います。

(大塚会長)

他にご意見ございますか。

(内田委員)

今、空き教室等を活用して研修会を開催するというお話がありましたが、もう少し具体的に1日のスケジュールや、どのように児童発達支援事業所を利用するか、1週間のスケジュールをお教えてください。

(鈴木障害福祉企画課主査)

この研修会自体では、具体的なスケジュールがあるわけではございません。あくまでもやり方の1つを提案する形です。どろんこ会さんの例としては、同じ建屋の中に児童発達支援事業所もこども園もあり、集団保育と一緒にやる時間もあれば、個別で取り出して保育をする時間もある形です。どろんこ会さんの児童発達支援事業所のお子さんもいれば、こども園のお子さんもいらっしゃる、併設のやり方も様々あります。静岡市内でも、同じ法人で児童発達支援事業所とこども園をやっている場所もありまして、様々やり方はあると思います。唯一の正解があるわけではなく、お子さんによって合わせるやり方が増えれば良いと考えています。そのやり方の1つとして、どろんこ会さんは全国展開している法人さんであり、かなり進んでおります。来ていただいて、聞いていただいて、一緒に課題等を考えていければいいと思っております。

(大塚会長)

他にいかがでしょうか。

(岩田委員)

図2に、公立のこども園における障がい児の受け入れが12%とあります。私立より公立のこども園の方が、この割合が高いのが現状だと思います。今回の研修の対象が、私立のこども園の園長と法人担当者となっておりますが、公立の園で同じような取組を考えていらっしゃいますか。

(磯部こども園運営課主幹兼副主幹)

公立のこども園の障がい児の受け入れ率は毎年右肩上がりです。今年度は16.1%、気になる子を含めると20%になります。今の時点の併設のお話ですが、公立こども園の空き教室の話もありました。ですが、公立こども園全体のことを考えると、今は考えておりません。

(大塚会長)

他にございますか。

(有田委員)

大変いい取組だと思いますが、これは市内に何か所もあっていいというお話でしょうか。区に1つではなく、様々な園で併設ができるところが、どんどん増えるのが望ましいというイメージでしょうか。

(鈴木障害福祉企画課主査)

現時点で何か所という想定はしておりませんが、選択肢が増えるのはいいと思っております。実際に、園さんで検討をしたいというお声を聞くことはありますし、お子さんと保護者様の選択肢が増えるのはいいことだと思っております。

(大塚会長)

他はよろしいでしょうか。

(2) 発達が気になるこどもの受診待機解消事業について

(静岡済生会療育センター令和より説明)

(大塚会長)

ただ今のご説明につきまして、ご意見やご質問がある方はお願いいたします。

(井関委員)

このお話、大変ありがたいと思いました。検査を受けた保護者様から、検査結果についてお話いただくときに、保護者様もただ結果を渡されよくわかっていない中で、ではどのような支援を受けられるか、一緒に考えていきます。そのとき、ピントがずれてしまうと適切な支援を受けられないことがあります。しかし、これは学校への説明もしていただけるということで、非常にありがたいです。この事業をぜひ今後も続けていただけたらと思います。

(大塚会長)

他にいかがでしょうか。

(岩田委員)

7月からどんどん利用者が増えているということで、だんだん周知が進んでいるため、利用に繋がっていることは大変いいと思います。小児科の医会にも説明に来ていただきましたが、そのときにも利用してみたいという声が多く、ぜひ継続していただけたらと思います。先ほど、不登校やODの話が出ていましたが、実際に病院に来る方は、体調不良の方がほとんどです。保護者様はODを疑っていらっしゃると思いますが、話を聞くと、ODではなく適応障害であるケースが多いです。ですが、保護者様はODという診断に大変こだわってしまい、どうやって本来のことを親御さんに理解していただくかという際に、いきなり資料を紹介しても、関係性が上手くいかなくなるきっかけになります。発達障害のことや、本人の体とは別の面の評価等もしてみる機会を提案することもできると思います。不登校やODのお子さんも利用できる大変いい事業だと思います。

(大塚会長)

他にいかがでしょうか。

(五條委員)

私も、非常に素晴らしい事業だと思います。心理検査のフィードバックが丁寧でないと支援の質が落ちるという話は、耳が痛い話です。特に、右下の意見交換の場は、こういった範囲でどのような場所で想定されていますか。医師の教育的な話にもなりますので、ユーザーにこういったニーズがあるか、心理検査の結果を詳細に、多動やワーキングメモリーだった等と説明するよりも、こういった支援に繋がられるか話し合う場は重要だと思いますので、ぜひ説明をお願いいたします。

(静岡済生会療育センター令和)

ありがとうございます。今年度は、4つの協力病院の先生方と一緒に、この事業を振り返りつつ、こういった様々な積み重なった事例を、今後同じようなケースがあった場合どのよ

うに支援するかというケース検討も行いたいと思っております。来年度以降、五條委員のように成人を診る先生がいらっしゃる他の病院さんや、医師だけではなく、多職種の方が発達障害のある方に関わってくださっていますので、そういった皆様との連携も考えております。

(大塚会長)

他にいかがでしょうか。では、私からも質問させていただきます。この事業につきまして、まだ始まって数か月にもかかわらず成果が大きく、今後もぜひ続けていただきたく思います。前回の会議で、受診待機に関して、就学支援委員会の審議のデータとして、静岡市では心理検査の結果が必要であり、病院を受診する子どもが多くいると申し上げました。最近では、大学受験もそうですが、高校受験も同じく、障がいのある受験生で、受験に際し配慮申請をする方が増えております。しかし、受験については、きちんと配慮を受けるために根拠資料が必要であり、医師の診断書や心理検査の結果等がないと配慮申請は通りません。そういったこともあり、この事業のニーズは大変増えております。ぜひ、この事業については今後も続けていただき、強化していただけたらありがたいです。

2 協議事項

静岡市発達障害者支援センター「きらり」の今後の在り方について
(静岡市発達障害者支援センターきらりより、説明)

(大塚会長)

ただ今のご説明につきまして、ご意見やご質問がある方はいらっしゃいますか。

(中原委員)

確認ですが。これまで、こども園や幼稚園で訪問支援としてやっていたことですが、緊急性のあるものはやっただけということでしょうか。

(静岡市発達障害者支援センターきらり)

訪問支援に関しては、支援体制サポート強化事業ということで、公立こども園が8ブロックに分かれておりますので、そちらに訪問しながら実施しております。周辺の私立こども園にもお声がけいただき、ご参加いただいている園もございます。拠点園は持ち回りになっておりますので、引き続き、私立こども園の先生方にもお声がけをしたいと思います。

(中原委員)

ありがとうございます。個別相談ですが、サポートファイルやアセスメントの充実等とあります。サポートファイルについては、やっぱりやらなかったりと実施状況にばらつきがあ

りますが、乳幼児期から成人期という形で、生まれたときから支援できるサポートファイルは、静岡市でやらなければならないと思います。その辺りの位置づけを教えてください。あと、アセスメントの充実についてですが、現場はどのようにアセスメントをしているのでしょうか。それぞれでやっているか、具体例をお教えください。

(静岡市発達障害者支援センターきらり)

サポートファイルについてですが、きらりで個別にご相談いただいている方については全て作成し、きらりでの経過も挟み込んでお渡ししています。医療機関の初診の間診票に近いものになっていますので、医療機関や専門機関にかかるときの資料としてもご活用いただいています。また、園や学校の先生方と協力いただいている方に関しては、個別支援のチェックリストや支援計画を園の先生や学校の先生が書いてくださる場合もあります。また、市内の協力関係機関では、幼児言語教室や支援学級、普通学級についても、支援が必要な生徒さんに関しては、学校と保護者が連携して書いてくださっている場合もあります。現状の課題については、きらりでもサポートファイルを作成し保護者様に丁寧にお渡ししておりますが、その先どのように活用されているかは、非常に温度差があることが挙げられます。きらりが直接的学校や園の先生にご説明することも限定的になっておりますので、せっかく作られているサポートファイルを、もう少し共有し、仲立ちになって、お子様や当事者の方の生活を応援できるようにしていきたいと思います。

アセスメントについては、サポートファイルの中にチェックリストがあります。これには、乳幼児期と学齢期が含まれています。また、成人期にもそういったチェックリストがありますので、場合によってはきらりの職員と一緒にチェックすることもあります。園の先生にチェックをお願いするのが、本来の使い方としてはいいのですが、保護者様には、まだ園に相談していない段階でご相談いただいているケースもあります。ですので、できれば保護者様にもきらりの支援員にも相談をいただいた上で、園の先生ともアセスメントを取っていただき、そのアセスメントを共有することで、より支援に活かしていただきたいと思います。県内の高校に、支援体制強化事業の巡回支援で何うことがあります、いくつかの高校から、中学校から上がってきたお子様について、保護者様からサポートファイルを手渡され、高校でも支援を継続してほしいということを入学前から言われたというケースが、少しですがありました。また、県立の高校で、静岡市内の自治体を知ってくださっている先生もいらっしゃり、きらりを聞いたことがあるという大学の先生もいらっしゃるのですが、お問い合わせ先が市ときらりになってしまっております。サポートファイルの活用方法について聞かれることもありますので、そういったことにも丁寧にお答えをしながら、活用していただけるように市と協力していきたいです。

(中原委員)

ありがとうございます。今、中学校から高校へのお話がありましたが、幼稚園・保育園・

こども園から小学校への引継ぎも非常に大切だと感じております。幼少接続のところでも、サポートファイルのような引継ぎ資料があるとありがたいです。

(静岡市発達障害者支援センターきらり)

ありがとうございます。夏季に教育関係の機関の皆様から研修会を依頼されることが多いのですが、今年度は中学校区の研修会で、園の先生も中学校区の研修会にお呼びし、幼・小・中の連携を呼びかける連絡会が学区の中で少しずつ増えております。その中でも、研修の依頼内容に多いのは、サポートファイルを含めたお子様の情報が縦に繋がることと、保護者に寄り添った支援をどのように学区としてしていくかということです。私たちも、情報が途切れない支援をしていくことを意識しながら、支援の内容に盛り込んでいきたいと思っております。

(大塚会長)

他にいかがでしょうか。

(前島委員)

育成会も以前とは違い、小さなお子様をお持ちの方の入会は少ないです。幼児は2名しかいない状況ですが、サポートファイルが様々なところで役立っているという情報は聞いております。医ケアの方がサポートファイルを丁寧に書き、就学に大変役立ったとおっしゃっていました。育成会としても、サポートファイルの良さを親御さんに伝えていきたいと思っております。

(大塚会長)

他にいかがでしょうか。

(酒井委員)

ちょうど先日、幼児言語教室に通うお子様のお母さまたちとお話の会を開いたのですが、そこでサポートファイルの話が出ました。就学のときに何か学校に持っていくかという相談があり、サポートファイルを皆様作っていらっしゃるという話をしました。頑張っているお母さまが熱くなってしまう一方、それを学校に持って行っていいか躊躇してしまうお母さま方も一定数いらっしゃることをお伝えしたいです。よろしくお願いたします。

(大塚会長)

他にいかがでしょうか。

(木林委員)

サポートファイルは大変素晴らしいもので、幼児から大人まで支援できるオーダーファイルなのですが、こちらの幼稚園で障害者雇用を始めた際、親御さんにお子様の今までの育ちのことで、様々問い合わせなければならぬことが、実際に大変多いです。どのようなことが苦手で、どのようなときに困ってしまうかなど、それは多岐にわたります。サポートファイルがあれば、ものすごくわかりやすいのにとと思いますが、できれば支援事業所さんにも共有していただき、輪がもっと広がればいいと思います。

(大塚会長)

他にいかがでしょうか。

(佐藤委員)

今年の5歳児健診は試験的で、ほんの数名しかやっておりますが、おそらく来年からはかなりの数の方を実施することになります。今までは引っかからなかったような、障がいの軽い方が拾われるようになりました。拾うのは簡単ですが、受け皿をどうするかという問題があります。きりりさんでは5歳児健診で、たくさんの人数の受け皿が必要になった際、その支援にどう関わるのでしょうか。

(鈴木障害福祉企画課主査)

きりりに代わりまして、お答えします。発達障害者支援センターきりりの委託を担当している者です。5歳児健診は、昨年度から検討が始まっております、実施状況については担当課から聞いている状況です。5歳児健診をするにあたって、引っかかったお子さんをどうフォローするかが大事だと、障害分野としては思っております。きりりとしても、こういった形で繋がるかは実例を積み重ねながら検討するべきだと考えておりますが、小学校入学前の大切なタイミングでお子様を繋げられるので、それを就学に繋げていけるような支援ができればと、実際にやっていたいいるきりりとも共有しながらやっていけたらと思います。また、そこはきりりだけではなく、先ほどご説明した受診待機解消事業とも、なぜ引っかかったか、なぜこのタイミングで支援が必要か、保護者様と共有するのがいいと思います。ですので、今後も担当課と協力しながら進めさせていただきます。

(大塚会長)

他にいかがでしょうか。

(平山委員)

就労に関する問題にも取り組んでいただき、ありがとうございます。当センターでも、グレーゾーンで「発達障害かもしれない」という思いがあり、病院等での診断は受けておられない方からのお問い合わせも、時々あります。当センターでも、ご希望があればご相談をお

受けすることも可能ですが、確定された障害の診断がないと、受けるサービス等も限られてきます。そういったグレーゾーンの方からの相談があったときに、ご相談先としてきりりさんをご紹介することは、これまでもさせていただいていたと思います。ですが、機能も変わるというご説明をいただいた中で、その辺りはご相談させていただくことも可能という認識で合っておりますでしょうか。

(発達障害者支援センターきりり)

いつもありがとうございます。ぜひ、引き続き同じように連携させていただきたいと思っております。支援の枠組みは現状に沿ったものと、より個別支援と地域づくりが繋がるようなものにしたいのです。個別支援の方法である、障がいがあってもなくても年齢問わず相談をお受けするという基本的な枠組みは、一切変わりません。ですので、引き続きご相談させていただきながら進めていきたいと思っております。

(平山委員)

ありがとうございます。よろしく願いいたします。

(大塚会長)

他にいかがでしょうか。では、私から申し上げます。令和8年度計画案に、研修での動画サイトの実施ということで、全ての動画をテーマごとに公開予定とあります。高校、小中学校や幼稚園の先生方がこういった発達障害に関わることについて、少し学んでみたいと思ったとき、こういった15分ほどの動画ですと、それほど長くなく隙間時間で見るができます。当大学の学生も、動画を見て学習している学生は多いです。先生方も、この程度の時間であれば、気軽に見て学習ができ、とても良いプランだと思います。ですが、これはどなたでも見られるようにするのか、登録制にして誰が何回見たか確認できるようにするのか、公開方法についてお教えてください。

(静岡市発達障害者支援センターきりり)

ありがとうございます。引き続き、公開方法については皆様にご相談させていただくこともあると思います。現在考えておりますのは、いつでもどなたでも視聴できる動画を公開する予定と、放デイや児発の方については、事前に申し込みされた方に公開するクローズの研修会の動画も公開しております。基本的に、動画は一般公開する方向で考えておりますが、より専門的なお話や生徒に関わるお話は、部分的に専門の方に届くように公開の仕方を変える予定です。また、ご相談させていただくかもしれませんが、よろしく願いいたします。

(大塚会長)

ありがとうございます。